

平成20年新年賀詞交換会

1月10日、市中央生涯学習センターで新年賀詞交換会が開催され、約200人の市民が牛久市のさらなる飛躍、発展を祈りました。

ここでは主催者代表の池辺勝幸市長のあいさつを紹介します。

市長あいさつ(要旨)

◇1期目の種まきから、2期目の事業化へ

私が4年前に市長に就任した当時は、国からの急激な交付金削減などで年間10億円を超える歳入不足であり、それに何とか対応するために約4年間頑張ってきました。はじめの平成16年・17年の2年間はまさしく行革と言うかコストの削減一辺倒で、必要不可欠な事業しか実施できない状況でした。

ただ、平成18年・19年は、行革の努力を継続してきた結果、歳出削減ばかりでなく、改革によって生み出した財源をもとに、今までに市民の皆様から頂いているご要望や必要な個所について各担当部課からの予算要求をほぼ100%実施することができました。このように財源の見通しがついてきました。市債、いわゆる借入金の手口として削減は継続して取り組んでいます。

そのような中で1期目では、少子高齢化に向けてのさまざまな施策、また安全・安心という市民の生命・財産を守る部分について、それと同時に市内全体の発展を踏まえた種ま

きも行ってきました。今後は、それを事業化に向けていく段階です。

◇工業団地拡張と消防署東部出張所建設

直接税収を増やす面で言うと、奥原工業団地のホギメディカルと契約して12ヘクタールの工業用地の拡張事業を実施しており、地権者の皆様の同意を頂き、100%買収が終わりました。そして現在、開発行為な

どの許可申請の手続きをしています。今年度中か遅くとも今年の5月から6月にはその許可が下りるものと思います。皆様の税金を1円も使うことなくその工業用地の造成をして、ホギメディカルに売り渡して、新たな税収を確保していく具体的な方向が見えてきました。2年後くらいには引き渡しができるのではないかと思います。

また、奥野地区に牛久消防署の東部出張所の建設が決定しました。これも用地取得が完了して、平成20年度から建設に入り、順調にいけば平成21年4月に開所できるものと思っています。これにより牛久市の消防・

救急救命の体制が、救急車2台から3台の体制になり、牛久署と西部出張所を統合して牛久署の消防と救急救命の機能を集約化し、より効率的で、より需要の多い救急車などの出動に対応していきます。

消防署員も若手を中心として6〜8人増えます。そのことにより、ひたち野地区で中高層マンションが建設されていますが、そのような高層化の消防・救急救命に対応すべくレスキュー隊の結成を模索しています。そして現在牛久消防署にあるはしご車を有効活用するなどして、今後の牛久市の消防および救急救命の基本的な枠組みが平成20年度にできるものと認識しています。

◇ひたち野牛久小学校建設

牛久市内で、ひたち野牛久地区は人口が増加し元気ですが、ほかの地区は人口が横ばいしないし減少しています。そのような中で市全体としては、人口は7万8000を超えて、昨年と比べると12月末日現在800人強、総体的に人口は増えていますが、私の思っている人口増の希望からすると少なく思います。これからの牛久のありようを考えたい場合には、牛久市は急激に高齢化が進んでいますので、これに対して今、若い人達の人口増を進めていかなければ、牛久のまちとしての活力は失われます。このことは将来的には税収

減ですので、あまり希望は見い出せないように思っています。

こうした拡張の中にあつて、ひたち野牛久小学校の用地取得については、都市再生機構と取り交わした区画整理事業での保留地の平均分譲価格の2分の1で譲渡していただけるという覚書を履行することができなければ、私は一時、別の場所でも安いところを買わざるを得ないという思いもありました。しかし、昨年9月の市長選挙では市民の皆様の意を受けて当初予定地に小学校用地を取得すると約束しました。それをいかに実現するか、市長として2期目に就任してから鋭意交渉してきた結果、11月30日に都市再生機構の茨城支社長と合意にいたったわけですが、

合意の内容は、1平方メートル4万2500円で購入するものです。これは北部特定土地区画整理事業での保留地の平均分譲価格が8万6000円強であり、その半値の4万3000円を切ったということ。私は歴代の市長が約束した覚書を何とか履行できたものと皆様にご報告申し上げます。これにより、ひたち野牛久小学校が当初予定地に建設できることになり、今、建物の設計などの発注を準備しています。校舎などについては、市内部において専門家と教育委員会、教育長を含め、2年強にわたり、どのような建物にすべきかといった検討をしてみましたので、



設計価格については、通常の設計価格の半値くらいまでできるものと期待しています。平成22年4月の開校を目指して鋭意努力していますので、皆様のご理解を頂きたいと思ひます。

◇根古屋川など水害対策事業の着工

もうひとつ大きな話ですが、みどり野、東みどり野、緑ヶ丘行政区にからむ水害対策の事業の着工です。これまで根古屋川の河川改修をしてきましたが、今年度一部調査費を執行し、JR東日本に委託するかたちで常磐線と国道6号の下にもう一本牛久沼に流れる排水溝を整備し、それと同時にふれあい橋からはじまるその周辺の水害を受けている、あるいは今後受ける可能性の高い住宅地の整備に着手していきます。これに加え、田宮地内など何力所か水害の地域がありますので、随時対策を講

じていきたいと考えています。

こうした大きな事業が進められていくことで、皆様には非常に申し訳ありませんが、一時的に借金が増えますが、引き続き行財政改革を進めていきますので、ご理解を頂きたいと思ひます。それ以降は少子高齢化、特に医療費、介護、国民健康保険、福祉の補助などにかかわる扶助費の大幅な負担増が見えていますので、その負担に何とか耐えられるように借金の返済の額などの調整をしながら、今後皆様とともに牛久のまちづくりを進めてまいりたいと思ひます。

◇企業誘致と宅地供給

今後魅力のあるまちづくりを目指し、それぞれの施策に力を注いでいきますが、その中で一番大事なものは、市も事業経営と全く同じで、収入がなくては市民を守ること、このまちを元気にしていくことはできないということなのです。企業、家庭が収入を上げるべく日ごろ努力しているのと同じように、牛久市も収入を上げるべく努力をして、着実に税収増に結び付ける施策を展開していかなければなりません。そのためには企業誘致、そして若い人達に住んでもらえるような施策、具体的には宅地供給を進めていく考えです。これについては、民間の皆様と一緒に進めていかなければなりません。市では

インフラの整備などの計画を立案していきますが、若い人達の買える値段で、住みたい面積の宅地を供給していかなければなりません。ぜひとも成功させたいと思ひています。

今、私たちに問われているのは、現状打破です。今までの慣習の中で守られてきたものを何とか維持しようという考え方は、これからの時代に対応できないと思ひています。皆様にご理解いただきたいのは、今までの枠組みを継続するだけでは牛久の未来はないということです。これから先を見据えた牛久のまちづくりの枠組みというものはどういふものなのかということも改めてもう一度この機会に情報交換していただきたいと思ひます。そして、これからの牛久を支える新たな枠組みをこの平成20年、子年をスタートの年にしたいと思ひます。

◇夢を追求できる、夢のある時代をつくらう

困難があっても、それを乗り越えることができる——私は最近こんなことをよく考えたり、そういうような歌を歌うようになってきました。どのようなことかと申しますと、戦後の今の時代をつくってきた人達がどういふ時代に生きてきたのかを今の時代と比べて振り返ってみると、物も着る物もない時代に目を輝かせ、未来に向かって夢を持って生き

てきた人の生き様と、今、お金はあり、立派な家があり、そして少ない児童数の中で立派な校舎で先生から丁寧な教育を受けられるなど、あの時代から比べれば足りているのではないかと思ひ直すことがあります。

何か今の日本人には、未来に対する新たな挑戦がないと感じます。今までつくってきたものを守ろう、守ろうとばかりして、これからの時代に対応しようとする気概がないと感じています。苦しくてもそれは耐え抜いて、次の時代を夢のある時代をつくらうと思ひます。

昨年、茨城県で「ねんりんピック」が行われましたが、そのときのテーマソングで「いつでも夢を」という歌があります。吉永小百合さんと橋幸夫さんの歌で、私にとって元氣がもらえる大好きな歌です。市の運営をしていく中で、つらいときもありますが、私はこの歌でどういふ時代になっても牛久を良くしていこうという思いが出てきます。ぜひともこの牛久のまちを皆様とともに夢を追求できる、わがままではなく、自分たちの子どもたちや孫に、このまちで、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん頑張つて、「こんなまちにしてお前たちに引き渡すぞ」と言えるように、今年また改めてこの日を出発点として皆様と一緒に頑張つていきたいと思ひます。